

5月は子どもの読書週間のある月です。子どもが子どもとして読書ができる時間はとても短いものです。ぜひ、選んだ本を手渡してあげてください。

『こぎつねルーファスのぼうけん』

アリソン アトリー／作 石井 桃子／訳 岩波書店 1991年 735円

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年★★★ 小中学年★★☆ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

アナグマのおくさんが森でみつけたのは、おとうさんも、おかあさんもない小さい赤ギツネでした。おくさんは自分の二ひきの子どもの思いうかべました。もう一ぴきくらいそだてられないわけじゃないけれど、あいてはキツネの子です。「おまえ、いい子にできる？」そうきいたおくさんに子ギツネがこっくりしたので、おくさんはためしてみることにしました。森のなかのシダと木々にかこまれた、アナグマさんのいごちのいい家に、子ギツネがすむことになったのはこういうわけでした。アナグマのおくさんは子ギツネにルーファスと名前をつけました。

ルーファスはきけんがだいすき。アナグマのきょうだいといっしょに、白鳥や空の月、そしてわるいキツネのおじさんをあいてにぼうけんをくりひろげます。

<子どもに手渡すときのポイント>

低学年の子どもに本を手渡すのはとてもむずかしいことです。ついつい簡単に読めるもの、見た目が派手なものなどを選んでしまいがちですが、絵本から読み物に移行するこの時期こそ素敵な物語と出会ってほしいものです。もし、自分で読むのに躊躇する子がいたら最初は読んであげてください。良い物語は耳から聞いても楽しめますし、何度読んでも楽しめます。

同じルーファスが出てくる物語に『こぎつねルーファスとシンデレラ』がありますが、こちらは品切れ重版未定となっています。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。



総合図書館 重村 さやか